

産経新聞 2019年6月18日 「ひこばえ倶楽部」への投稿掲載

(平成29年度入学) 高校2年(六か年コース) G組 木下凜太郎 君

「人と馬に絆、夢は調教師」

平成27年の競馬「ジャパンカップ」で、サラブレッドの光り輝く美しい馬体を見て、将来は調教師になろうと思いました。

競馬は一般的にギャンブルのイメージが強いですが、一頭の競走馬にはさまざまな人が密接に関係し、たくさんのドラマが生まれるスポーツです。

人と馬の絆に魅力を感じ、スポーツとしての競馬を、もっと多くの人に知ってほしい。

そのためには、強い競走馬を育て、競馬を、よりポピュラーにスポーツにすることが大切です。

調教師になるには、馬の世話を学ぶ厩務員学校を卒業し、調教助手、そして調教師という長い道のりを歩まなければなりません。調教師試験は、合格者が年に数人という狭き門です。

馬術を学べる大学へ進んで馬とたくさん触れ合い、調教師に必要な経営・経済学も学びたい。そのためにも、もっと勉学に励みたいと思います。